

ワーケーションモニターツアー

10月15日(金)～18日(月)、東京や兵庫の企業から計8名が参加し、ワーケーションモニターツアーが行われました。

同ツアーは、ワークとバケーションを組み合わせ、働きながら休暇をとるという新しい働き方について、黒潮町でのワーケーションの可能性を探したい、どんなものが必要か意見交換したいという目的で町が企画しました。

ツアーでは、ホエルウウォッチングやサーフィンを体験。最終日の意見交換会では、参加者から町との今後の関わりについて具体的な提案があり、町の課題解決のアイデアなどについて意見を交わしました。

同ツアーに参加したBOLST ER株式会社の松田忠浩代表取締役は、「感動しかない3泊4日だった。都会で普段聴いている音とは全く違った音ばかりが聴こえて楽しかった。住民との会話も楽しめてとても良かった」と話しました。



意見交換する参加者

は全く違った音ばかりが聴こえて楽しかった。住民との会話も楽しめてとても良かった」と話しました。

くろしおサッカーデー

11月3日(水)、土佐西南大規模公園でFC KUROSHIO 84、大方高校女子サッカー部、大方FCの3団体が共催し「くろしおサッカーデー」が開催されました。

同イベントは、世代間の交流やつながり作り、サッカーの普及を目的に開催され、午前の部で行われたサッカースクールには約90人が参加し、保育園児、小学校低学年、中学年、高学年、中学生と保護者の5チームに分かれ、1時間程度のサッカースクールを行いました。

サッカースクールに参加した大方FCの永森葵向さんは「シユート練習やドリブル練習をした。最後には試合もできて楽しかった。次はPK戦をやってみたい」と話しました。

FC KUROSHIO 84の久保田聖也監督は、「幅広い世代が集まったので少し心配だったが、楽しくやってくれていたように思う。来年もまた開催できれば」と話しました。



試合を行う参加者

は全く違った音ばかりが聴こえて楽しかった。住民との会話も楽しめてとても良かった」と話しました。

オンラインツアーでバリアフリー体験

高知県が推進するバリアフリー観光事業の一環として11月5日(金)、車いす利用者がカツオの薫焼きタタキ体験をする様子がオンラインで生配信されました。

この事業は、県内6カ所で実施。黒潮町では、黒潮一番館を会場に、車いすインフルエンサーの眠梨桜さんがカツオの捌き方や焼き方を体験しました。眠梨さんは、「初めての体験で熱中した。手を添えながら教えてくれるので、どんな人でも体験しやすいのでは」と話しました。

また、ツアー配信終了後は、遠隔操作が可能な「オリヒメ」というロボットを使用し、高知若草特別支援学校と香美市身体障害者連盟に黒潮町の映像を配信。同校の生徒からは「景色が綺麗」などと声があがり、楽しんでいた様子でした。



眠梨さんの体験の様子を生配信

は全く違った音ばかりが聴こえて楽しかった。住民との会話も楽しめてとても良かった」と話しました。

あそびバ！ in 高知

親子でできる運動を通じて身体の動かし方を学び、親子のコミュニケーションを促進しようと、(一社)日本トップリーグ連携機構が10月17日(日)、土佐西南大規模公園体育館で「あそびバ！」を開催し、30組の親子が参加しました。

年中～小学2年生とその保護者を対象に、共栄大学教育学部の専任講師・篠原俊明さんと元バスケットボール選手の出岐奏さんが講師を務め、高知ファイティングドッグスの選手2名などがサポートを行いました。

イベントでは、全身を使ったじゃんけんなどの簡単な運動やボールを使ったあそびなど、自宅でもできる内容を学びました。

参加した横内海都さん(5歳)は、「ボールを上に乗せて手をパチパチ叩くのが楽しかった」と話しました。



ボールを足で挟み一周する運動

は全く違った音ばかりが聴こえて楽しかった。住民との会話も楽しめてとても良かった」と話しました。